

分科会 9

語り合い！ 医療サービスの「見える化」ってなんだ？

出演者：市川左千子（埼玉精神障害者団体連合会ポプリ）
大羽更明（NPO法人横浜市精神障害者家族連合会）
下地英樹（相州病院）
進行：相澤和美（地域精神看護ケアねっと／国際医療福祉大学大学院）
佐々木理恵（一般社団法人 WING-NETWORK 多機能型事業所すぺいる）
大橋秀行（NPO 法人精神科作業療法協会／埼玉県立大学）
川口敬之（NPO 法人精神科作業療法協会／北里大学）

全体の流れ

本分科会では、医療サービスがリカバリー志向に転換するために“本当に必要な「見える化」ってなんだ”といったテーマで開かれ、総勢 53 名の方々に参加していただきました。

はじめに、当事者・家族・専門職の立場から考える医療サービスの「見える化」について、出演者 3 名から発表しました。

次に、その発表を受けて、テーマについてグループディスカッションを行い、アイデアをシートに書き出しました。アイデアは延べ 104 あがり、参加者は各グループを回り、シートに書かれたアイデアに共感した際に、“いいね！”の気持ちを込めて「星・☆」のシールを貼って回りました。その後、各グループに発表していただくことで、みんなで医療の場に必要「見える化」の案をシェアすることができました。

分科会を通して、こうした「見える化」の実現により、当事者-医療関係者・場における対等性が成り立ち、サービス利用が当事者主体となっていくことを共有いたしました。今後の「見える化」の取り組みが期待されます。

グループディスカッションで上がった「見える化」のアイデア（抜粋）

- ・当事者の声を医療者に届けるツール
- ・医療者の垣根の高さ度、医者への機嫌度
- ・診療内容を自分で選べるメニュー表
- ・病院の売りや欠点
- ・人とのつながりができる場やその情報
- ・病状の段階、退院後の生活の見通し
- ・医療技術や薬の情報
- ・当事者参加のチーム医療、施設間の連携
- ・難解な言葉や専門用語
- ・保護室や身体拘束の体験ツアー

グループディスカッションの様子と「見える化」シート

